

(別紙様式)

(A3判横)

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立越谷東高等学校)

目指す学校像	志を高くチャレンジ精神に満ちた生徒を育て、きめ細かく面倒見のよい指導を実践し、地域から信頼される学校
--------	--

重点目標	1 生徒の学習力を高める 2 規律ある生活態度を身につけさせる 3 目先に左右されない進路決定を実現する 4 部活動を活性化させる 5 地域との連携を深める
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・本校生徒は前向きに授業に取り組んでいるが、家庭学習の習慣が定着していない。昨年度に引き続き、生徒の学習意欲向上や、家庭学習習慣の定着を図り、生徒の多様な進路希望を実現できるように、学力をさらに向上させることが課題である。	・生徒の学習意欲の向上を目指した学習活動を行う。 ・生徒の家庭学習習慣を定着させる。	①近隣中学校との授業交流や授業公開や教員研修会とおし、授業の改善を図る。 ②補習、小テストなどを通じて基礎学力を向上させる。 ③公開授業、授業研修や授業時間の確保、教材や課題作成の工夫等を実施して、学習環境の整備等を行う。	①生徒アンケート、授業アンケートにて、授業満足度が昨年度の数値より増加したか。 ②校内模試の結果、成績優良者の増加、欠点取得者数の減少等の結果が昨年より向上したか。	生徒アンケートでは、授業満足度は「そう思う」と「大体そう思う」の合計は87.7%の生徒がプラスの評価で昨年より2.2%増加した。中でも「そう思う」と答えた生徒は3.3%増加した。実力テストの成績は1年生では向上しているが、2,3年生は現状維持であった。また、授業カウント等を行い、授業時数を確保し学力の向上に努めた。	A A
2	・近年の本校の落ち着いた学習環境は、基本的生活習慣を身に付けさせる指導が根底にあると評価されている。今年度も、指導体制の維持をし、さらに社会人としてのマナーを身に付けることが課題である。	・基本的生活習慣の確立を目的とした指導を継続する。 ・社会性やマナーを身に付けさせるために、挨拶や言葉遣い等の指導を行う	①分掌と学年が連携し、学校全体の統一した指導や家庭との連携を深め、基本的生活習慣の指導を継続する。 ②SNS講習会、薬物乱用防止教室等を実施する。 ③清掃活動を徹底し、学習環境を整える。	①職員の共通理解を得て、共通行動が実施できたか。 ②遅刻率、事故発件数は昨年度より減少したか。 ③生徒の健康状態を把握し、適切な指導を行えたか。	各学年で統一的に遅刻指導や整容指導の定期的な実施が行われた。 出席状況は昨年度より出席率0.7%遅刻率-0.7%早退率-0.07%と向上した。保健室とHR担任と連携して情報共有に努め、生徒の健康状態を把握し、指導に活かした。またSNS講習会、薬物乱用防止教室等を実施した。	A B
3	・生徒の進路先は大学、短大、専門学校、公務員、一般企業とそれぞれ希望者がおり、多岐にわたっている。生徒が自立して、自主的に進路決定できるように計画的・組織的な指導体制を確立し、きめ細かな進路指導の充実と指導体制の確立をさらに進めることが課題である。	・計画的組織的な進路指導を遂行し、進路意識を高め自己理解に基づく生徒一人一人の適切な進路実現を図る。	①生徒に、「進路のおしり」、「進路だより」を充実させ、適切で有効な進路情報を提供する。 ②進学補習や小論文指導を開講するなど、指導を計画的に推進する。 ③学校間ネットワークから得た情報を参考に、進路指導部と各学年と連携し、進路先や希望校を早期に自己決定するようにする。	①大学短大の現役進学者は昨年度より増加したか。 ②民間企業への就職希望者の正規採用数は増加したか。 ③早期の進路決定は実現できたか。 ④補習講座の充実と参加生徒は増加したか。	大学短大への現役進学者数は、専門学校への希望者が増え、H29年度106人からH30年度93人となった。就職希望者数の正規採用数については22人の生徒が採用された。 計画的な進路行事と面談を通じて早期進路決定に努めた。また、生徒の多様な進路希望に応じた開講講座を開くことができたが、受講者数は昨年と同程度であった。 生徒アンケートでは、進路に関する情報が生徒に十分に提供されているが「そう思う」「大体そう思う」の割合が、86.3%となっている。	B
4	・近年の本校の部活動参加率は増加している。生徒に様々な活躍の場を設定するうえで、より一層の部活動の活性化を図ることが課題である。	・部活動の参加率を上げ、積極的な活動内容をおし生徒に達成感や充実感を与える。	①大会への参加や文化祭や体育祭などで活躍できる場面を増やし、生徒のやる気を引き出す。 ②広報委員会と連携しHPで部活動の最新情報を発信し、さらに学校説明会で部活動体験を実施する。	①部活動の加入率が増加したか。 ②生徒アンケートにて部活動に積極的に参加している生徒の割合が昨年度より増加したか。 ③HPの更新状況は昨年度より改善されたか。	生徒の部活動加入率は昨年度とほとんど変わりがなく約90%の加入率であった。生徒アンケートでは積極的に参加している生徒は77.5%であり昨年度の77.7%とほとんど変化がなかった。HPの更新状況は昨年度と同様の更新回数であった。	B
5	・本校の教育活動に対する理解を図るため、積極的に学校内外に情報発信をしてきた。今年度も継続し、教育活動の情報発信を行うことが課題である。特に、HPの更新をさらに充実することが課題である。	・保護者や地域に、より多くの学校情報を発信し、本校の教育活動の理解を得る。	①ホームページの更新をタイムリーに行い、本校への関心を喚起する。 ②PTA・後援会活動をさらに活性化し、保護者との絆を深める。 ③中学校訪問や上級学校訪問の受け入れを、広い地域を対象に実施する。また、中学校の授業交流をおし、本校の教育活動を理解してもらう。	①ホームページの更新回数やアクセス数は昨年度より増加したか。 ②PTA理事会、PTA行事の参加人数は昨年度より増加したか。 ③中学校訪問や上級学校訪問の受け入れた学校数は昨年度より増加したか。 ④中学校との授業交流は実現できたか。	ホームページのアクセス数は25万件と昨年度より増加した。昨年度に引き続き、校長日記や各部活動の記事が充実するように取り組んだ。PTA・後援会活動については、総会や理事会の参加人数は昨年度とほぼ同様であった。 4回の学校説明会では、延べ757組(昨年812組)の参加があり、各部活動にも多くの中学生に参加・見学してもらった。また、第4回目の学校説明会には、「受験ワンポイントアドバイス」の新たな取り組みを行った。中学校訪問、母校訪問は昨年度と同様に行った。上級学校訪問は、昨年度同程度の11校で昨年より増加した。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 平成31年 2月22日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>課題や復習、予習プリントを一生懸命やる生徒もいれば提出物がだらしない生徒もいる。たいていの生徒は、再テストにならないように必死になっている。予習、復習をしている生徒が22.9%増加していることは評価できると思う。保護者の目からは、まだ物足りない様子が伺われるが、生徒自身が自分のこととして取り組まなければならないので、何のために勉強するのか、早期に目標を立てさせることが大切と思う。</p> <p>生徒は落ち着いたように見える。しかし、まだまだ指導が必要な年齢であると思うので、家庭と学校の連携を取って地道に指導をお願いしたい。廊下であいさつしてくれる素直な生徒が多い、指導の成果と思う。通学路の一部は、狭くなっている道があるので、注意が必要である。</p> <p>将来の設計について、高校時に早く決める生徒もいれば、なかなか決まらない生徒もいると思う。早めに目標を定めることは良いことと思うが、いろいろな体験の中から、自分のやりたいことを、見つけることも大切と思う。指導する側は大変だと思うが、生徒に良いアドバイスをしてほしい。保護者として、生徒たちの進路決定において、自発性や自主性など感じられた。</p> <p>部活に勢いのある学校は、学校自体に勢いがある。部活で得るものは後の人生に役立つと思うので、多数の参加が望ましい。設備(トレーニング設備等)備品がもっと充実できれば良いが、予算上の課題がある。</p> <p>HP等での情報発信は、今では当たり前になっている。常に新たな内容の更新等をするとともに、校長をはじめとする教員や生徒が地域の事業に、可能な限り参加することも有効だと思う。分掌・学年の自己評価シートは大変良い取り組みと思う。主任の目標数値に、他の教員が同じ志で取り組んでいるので、生徒たちに伝わっていると思う。</p>	